

福祉サービス第三者評価 評価結果

【保育所】

オハナ上永谷保育園

横浜市港南区上永谷 1 丁目 38 番 18

運営主体: 社会福祉法人 葵友会

実施概要	1 ページ
総合評価 (評価結果についての講評)	2~3 ページ
評価領域ごとの特記事項	4~5 ページ
分類別評価結果	6~16 ページ
利用者家族アンケート分析・集計結果	17~24 ページ
利用者本人調査分析	25~27 ページ
事業者コメント	28 ページ

2009 年 3 月 10 日公表

実施機関: 特定非営利活動法人 市民セクターよこはま

実施概要

事業所名	オハナ上永谷保育園	
報告書作成日	2009年3月10日	評価に要した期間 8ヶ月間
評価機関	特定非営利活動法人 市民セクターよこはま	

評価方法

<p>1、自己評価</p> <p>実施期間:2008年6月10日 ~2008年11月14日</p>	<p>6月10日評価機関による職員説明会開催 職員会議や個別に趣旨を説明し、常勤・非常勤すべての職員各個人が記入した。 各個人が記入した物をもとに、クラス毎やパート職員同士の会議を開き、意見交換しながら1項目ずつ確認・合意した。 全項目を通して、各クラスリーダー・主任・園長で協議・合意して一つにまとめた。 園内研修として評価領域毎に全体でのまとめの振り返りや協議を行った。</p>
<p>2、利用者家族アンケート調査</p> <p>実施期間:2008年10月25日 ~2008年11月3日</p>	<p>全園児の保護者(75家族)に対して、保育園側からアンケート用紙を手渡しで配布した。 各保護者より、返信用封筒で、評価機関にあてて無記名で返送してもらった。</p>
<p>3、訪問実地調査</p> <p>実施日:第1日 2008年12月8日 第2日 2008年12月10日</p>	<p>[第1日] 午前:各クラスで保育観察。 昼食:幼児クラスで園児と一緒に食べながら、保育観察。 午後:書類調査。園長・主任・栄養士に面接調査。</p> <p>[第2日] 午前:朝は登園の様子を観察。その後、各クラスで保育室及び散歩同行により保育観察。 昼食:幼児クラスで園児と一緒に食べながら、保育観察。 午後:各クラス担任保育士6名、男性保育士1名、看護師1名、栄養士1名、非常勤職員1名に個別に面接調査。 その後、園長・主任に面接調査。 最後に意見交換を行い、終了。</p>
<p>4、利用者本人調査</p> <p>実施日:第1日 2008年12月8日 第2日 2008年12月10日</p>	<p>観察調査は、調査員が各クラスに分かれて実施した。戸外・園外での活動も観察。 幼児を中心に、観察調査や昼食で同席した際に、会話の中で適宜聞き取りを実施した。</p>

総合評価（評価結果についての講評）

【施設の概要】

オハナ上永谷保育園は、横浜市営地下鉄上永谷駅より徒歩 12 分のところにあります。地下鉄ですが、高架駅となっており、北側出口のペデストリアンデッキを通り、環状 2 号線を挟んだ保育園の位置する高台中腹まで直結している連絡橋を利用すると、道路を横断することもなく、高低差も緩和されます。保育園の周辺は閑静な住宅街が広がり、近くには横浜市立の中学校、高校があります。園舎はバス通りに面していますが道路側の保育室は 2 階となっているため静かな環境となっています。

園舎は築 2 年半と新しく、鉄筋コンクリート造りの 2 階建てで、1 階はエントランスと駐車スペースとなっています。定員は 90 人(0～5 才児)、年齢別の 5 クラスで、開園時間は平日：7:00～20:00 土曜日：7:00～18:00 となっています。

社会福祉法人葵友会が運営し、他にオハナ新羽保育園、特別養護老人ホームの運営も行っています。

保育の理念は「子どもは遊びを通していろいろなことを体験し、学んで行くもの」「人と人との関わりを通して、心を育てる」という 2 点を掲げ、オハナ（ハワイ語で家族）のような保育園にしたいという園の思いを伝えています。

高く評価できる点

1、1 人ひとりが尊重され、自分のペースで落ち着いた園生活を送る子どもたち

「子どもは本来遊びを本分とし、遊びを通して多くの友だちと関わり、多くのことを体験します」と理念の中にある通り、登園後、子どもたちは朝の自由時間を自分の好きなことをして過ごしています。保育士は、子ども同士の関係性や「やりたい」という気持ちを大切に、出来ることを見守り、出来ないところは支援し、「できた」という満足感を大切にしています。

また、異年齢児と合流する園庭遊びや午睡のあとの時間帯に 5 才児が乳児クラスに手伝いに行くなどの機会があり、自然と年長の子どもが年少の子どもに手を貸すなど、年少の子どもが年長の子どもの様子を見て学んでいる姿が見られます。ここでも、理念に掲げられている「人と人との関わりの中で心が育つ」ということを大切にしている姿勢が見られます。

毎日のデイリープログラムは固定せず、その日の子どもの体調や様子に合わせて柔軟に対応し、絵本で見た「ロボットランド」を作りたいという子どもの思いを発展させて、クラスで力を合わせて大きな段ボールのロボットを作るなど、子どもの自由な発想を発展させて一斉活動に取り入れています。また、出来上がったロボットは、保護者が参観するお楽しみ会で披露し、子どもたちの達成感と充実感を大切にしています。遊びの取り組みについては、保護者アンケートでも高い評価を得ています。

2、園一丸となって「変革」を目指した取り組み

開園 1 年目に法人組織の変動や職員の入れ替わりがありましたが、園長が交代した事を契機に、これまでのやり方を見直し、いくつかの新しい取り組みを行っています。

例えば、「どんな保育園にしたいか」というテーマの園内研修を行っています。職員が平等にかつ自由に意見を出し合えるように工夫し、個々の職員の経験や知識を活かした提案を進んで取り入れ保育の改善に活かしています。

また、開園当初取り入れていた天然素材のおもちゃなど、本当に職員が理解して使いこなせているかなども検討しました。保育士が自信と余裕をもって与えられるおもちゃを使うことなどを職員間で話し合い、保育の見直しをしました。

特に園長が改善の必要性を感じていた、給食の外部委託を平成 20 年度より直接雇用に変えています。

食育の大切さを重視し、質を向上させつつ主食代の値下げなどを実行するほか、安心・安全な給食提供を心がけています。また、子どもたちが楽しみながら健康増進ができるように、給食室の前のホワイトボードにイラストで食材などを紹介したり、子どもたちが食材に触れ、調理に参加するクッキングの機会を設けたりするなど、給食担当職員と保育士が話し合い、協力して取り組んでいます。

第三者評価の自己評価も非常に厳しく捉え、評価項目を内部研修の題材として取り上げています。自己評価の感想からも、非常勤の職員も含めた職員全員が当事者意識をもって取り組んだことが伺われます。

独自に取り組んでいる点

1、外部機関と連携して取り組む体操教室

昨年度のお楽しみ会で取り入れ、保護者から好評だった体操教室を幼児クラスに定期的に取り入れています。

外部機関を活用し、専門的な発達の状態に応じたメニューのバリエーションの中から、この園の子どもたちの発達の状況や興味の対象に合わせて、年間・月間カリキュラムが作られています。外部指導員と園職員が事前に十分打合せを行い、連携しながら子どもたちの援助をしています。

メリハリとリズム感のある体操教室は子どもたちにも人気が高く、楽しみながら年齢に応じた運動能力を高めると共に、ルールや協調性を学んでいます。

近年は、運動が嫌い、外で遊ばないという幼児も増えていますが、ここでは、体力や運動神経が養われ元気ではつらつとした子どもたちの姿が見られます。また、出来ないところを指摘するのではなく、「までできたね、次は したらできるよ」という声かけが子どもたちに自信と喜びを与えています。さらに、通常の保育中には、コミュニケーションが取りにくいとみられる子どもも、自然な形で友だちと手を取りあい、力を合わせて取り組む姿が見られました。

改善や工夫が望まれる点

1、マニュアル整備などのシステムづくり

開園 3 年目の園ですが、経験と知識の豊富な職員が多く、日常の保育は丁寧で充実したサービスを提供しています。職員間の連携も良く、午睡の時間を活用して行われる昼ミーティングやクラスミーティングで常に情報を共有していますが、園として、マニュアル整備などのシステム構築がされていません。非常勤職員を含む全職員が共通認識のもと、同様の対応を取り、保育の質を保つためには、マニュアルの整備とその運用が必須となります。

現在園では、「オハナ上永谷保育園」の保育現場に基づいた有効的なマニュアル整備を目指して、取り組みを始めています。マニュアル作成は、園内研修を利用し職員間で協議され、園長や主任保育士が取りまとめるという過程を踏んで進められており、その完成を機にシステム構築の一步を踏み出すことが期待されます。

2、職員の充実感に繋がる人材育成計画の策定

年間 20 件以上の外部研修や、全職員が垣根なく平等に意見を出し合う園内研修を通して、職員は個々のスキルを上げるだけでなく、園運営への参加意識や愛着心を培っています。また、現在、園一丸となって「変革」を目指して取り組んだことが、職員のモチベーション向上につながっています。

このような職員の向上意識を受け止めるため、経験・能力や習熟度に応じた役割や責任についての期待水準を職員に明示することが必要です。職員のモチベーション維持と更なるスキルの向上のために、職員一人ひとりの目標を立て、段階にあわせた計画的な人材育成計画を策定することが望まれます。

評価領域ごとの特記事項

かながわ福祉サービス第三者評価推進機構が定めた「評価領域」に則って、記載しています。

1、人権の尊重

- ◇ 保育の理念として、「子どもは本来、遊びを本分とし、遊びを通して多くの友達との関わり、多くのことを体験します。その友達との関わりのなかから心を育て、その体験の中から多くのことを覚え、身につけていくものです。心は人と人との関わりの中でしか育たないといわれます。そのためにも、よく遊び、友達を大事に思い、好奇心の旺盛な子に育てたいと思っています。」「そのために保育士は、知識面・技術面だけでなく、感覚も研いて子どもの感動に共感できる感性も持って欲しいと思います。専門分野に限らず、多角的な研修や経験をつめるよう計画したいと思います。」ということ掲げ、全職員理解のもと、子ども本人を尊重した保育が実践されています。
- ◇ 保育中子どもをせかしたり強制したりせず、一人ひとりの様子を見て、そばに行き穏やかに分かりやすい言葉で話をしています。注意すべき事柄は各クラスで確認し合い、一貫した対応をとるようにしています。
- ◇ 個人情報の取り扱いについては、保護者会で説明し、希望を聞いた上で、連絡網は作成しないことに決めた。保育中の写真の取扱などについても、保護者の了解を得ています。
- ◇ 虐待の定義については、ミーティングの時に取り上げ、虐待が明白になった場合や疑われる場合には、地域療育センターや福祉保健センター、児童相談所などの関係機関に迅速に通告・相談する体制を整えています。

2、意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供

- ◇ 子どもが自発的に表現するように、はさみや色鉛筆などを自由に使えるように用意しています。また、5歳児では紙を大切に使えるようになると各自が自由画帳を持ち、作品が残るようにしています。
- ◇ 保護者の要望から取り入れた体操教室では、年間計画を毎月見直し、外部指導員と保育士が協力して、子どもの既往歴や健康状態に合わせた遊びを工夫しています。
- ◇ 3年前に新設された園舎は屋内・外とも清潔に維持され、各保育室には大きな窓が設置され、陽光が取り入れられています。
- ◇ たまねぎの皮むきなどの調理参加やクッキングの経験を取り入れたり、調理室前のホワイトボードにその日のメニューをイラスト付きで表示したり、子どもたちが食事及びその過程（調理・配膳・片づけ）に、関心を持つよう工夫しています。
- ◇ 保護者向けに給食試食を開催しています。栄養士や担任も一緒に食事を摂り、食事作りのポイントや人気メニューなどを紹介したり、保護者からの相談や意見交換を行ったりしています。

3、サービスマネジメントシステムの確立

- ◇ 保育方針「心を育てる保育を心掛ける」等では理念実現に向かって、園の姿勢を打ち出し、保育計画は、園長が作成しています。日常の保育については、各クラス担当の裁量に任せられ、子どもの意見や体調、その日の天気や行事を考慮して、指導計画に反映させています。全職員が関わって作成することは、今後の課題だと考えています。
- ◇ 指導計画は、子どもの発達に応じて、年齢や個人差を考慮し、各クラスミーティングを通して作成され、カリキュラム会議を通して職員全体に周知すると共に、意見交換が行われています。
- ◇ 各保育室は、棚や畳等の敷物の配置を工夫し、小集団で落ち着いて遊べるようになっていて共に、食べる・寝るなどの機能別空間を確保しています。
- ◇ 一人ひとりの個人ファイルが用意され、入園時の調査票や保健記録、経過記録など、子どもの発達に関する記録が個々にまとめられています。記録は日頃の保育や年度末の申し送りで活用されています。
- ◇ 保護者の要望や意見等は、日々の送迎時や行事後のアンケートや懇談会を通じて、進んで受けよう

にしています。苦情や要望は記録し、ファイルに綴じています。対処方法は必要に応じて職員会議や、各クラスの代表と園長が集まる昼ミーティング（週一回）で取り上げています。

- ◇ 子どもの健康管理に関するマニュアルがあり、「視診のポイント」を参考に登園時に子どもを受け入れています。出来るだけ、登園時には、主任や看護師が各クラスを回り、保護者に声をかけながら一人ひとりの健康状態を把握するようにしています。
- ◇ 衛生管理に関するマニュアルはありませんが、手洗い・消毒や汚物処理時の注意事項、乳児の玩具や保育室の消毒、害虫駆除などについて、手順や時期が決められており、清潔・適切な状態が保たれています。
- ◇ 安全管理に関するマニュアルはありませんが、現在作成に取り組んでいます。

4、地域との交流・連携

- ◇ 地域での子育てを支援するためのサービスとして、園庭開放の他、子育て支援事業の一貫として、夕涼み会や運動会、バザー等の行事に地域の子育て中の親子を招待し、多くの参加者があります。
- ◇ 自治会の方に子どもたちが盆踊りを教えてもらい、夕涼み会には、地域の方たちを招待して子どもたちと一緒に盆踊りを踊るなどの交流があります。
- ◇ 就学前に学校探検などを行ったり、中学校の職業体験学習や小学校の新任職員研修を受け入れたり、学校教育との連携を積極的に図っています。

5、運営上の透明性の確保と継続性

- ◇ 守るべき法・規範等は「就業規則」に記され、就業時のオリエンテーションで説明・配付すると共に、職員が遵守しています。
- ◇ 保育の理念や方針は、就業時のオリエンテーションや毎月のカリキュラム会議などで、職員に周知されています。
- ◇ 重要な意思決定や変更事項は、園長・主任間で充分協議した上で、会議で職員に説明し、検討チームを編成し取り組んでいます。
- ◇ 理念や基本方針の実現のために重要な情報は園長と職員間で日常的に議論し、重要な課題については、園全体で取り組んでいます。
- ◇ 中・長期計画はソフト面（保育や人材）とハード面（設備）において、それぞれ一年目、二年目、三年目、中期、長期に分け、一覧表にしています。

6、職員の資質向上の促進

- ◇ 園の理念や方針に沿った人材を育成するため、園長の声掛けや職員の希望を募り、年間20件以上の外部研修に参加しています。
- ◇ 園内研修はテーマを決め、非常勤職員も交えて行っています。
- ◇ 計画的に人材を育成するための取り組みとして、人材育成計画や研修計画作成が望まれます。
- ◇ 職員のモチベーション向上のため、「どんな保育園にしたいか」というテーマの園内研修を行っています。職員が平等にかつ自由に意見を出し合えるように、KJ法を用いてグループ討議を実施しています。
- ◇ 実習生受け入れのためのマニュアル等があり、実習目的に応じた効果的な実習が行われるために、プログラムは1日の生活の様子を見られるように配慮し、実習生の希望にもあわせています。

分類別評価結果

横浜市評価基準を使用しています。評価基準の詳細については、横浜市健康福祉局「福祉サービス第三者評価」のホームページ <http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/hyouka/index.html> を参照して下さい。




「ひょう太」の数の意味は以下の通りです。

3つ：高い水準にある 2つ：一定の水準にある 1つ：改善すべき点がある

評価分類の結果は、各分類を構成する1～6つの項目の評価結果で決まります。「ひょう太」が1つしかつかない項目が1つでもあると、その項目の属する評価分類の結果は「ひょう太」1つとなります。

評価領域 利用者（子ども）本人の尊重

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>- 1 保育方針の共通理解と保育計画等の作成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育の理念として、「子どもは本来、遊びを本分とし、遊びを通して多くの友達と関わり、多くのことを体験します。その友達との関わりの中から心育て、その体験の中から多くのことを覚え、身につけていくものです。心は人と人との関わりの中でしか育たないといわれます。そのためにも、よく遊び、友達を大事に思い、好奇心の旺盛な子に育てたいと思っています。」「そのために保育士は、知識面・技術面だけでなく、感覚も研いて子どもの感動に共感できる感性も持って欲しいと思います。専門分野に限らず、多角的な研修や経験をつめるよう計画したいと思います。」ということを掲げ、全職員理解のもと、子ども本人を尊重した保育が実践されています。 ・ 園の目指す保育は、これまで理念や方針という専門用語を使わず、わかりやすい言葉で伝えてきました。第三者評価受審にあたり、改めて理念や方針という形で、職員や保護者に文書で伝えています。 ・ 保育の理念に、丁寧な文章を用いることで、保護者や職員に園の思いが伝わるように工夫しています。 ・ 保育方針「心を育てる保育を心掛ける」等では理念実現に向かって、園の姿勢を打ち出しています。 ・ 保育計画は、園長が園の方向性を定め、保育方針に基づき、地域性や保護者の就労状況を考慮して作成しています。また、全職員が関わって保育計画を作成することは、今後の課題だと考えています。 ・ 年度初めのクラス懇談会で、年間の行事予定表を保護者に渡しています。 ・ 日常の保育については、各クラスの担当の裁量に任せ、子どもの意見や体調、その日の天気や行事を考慮して、指導計画に反映させています。

- 2 子どもの発達や状況に
応じた適切な援助の実施



- ・ 入園に際しては、園長・主任・担任を中心に、保護者と面接し、調査票に沿って記録しています。その間、面接に同席している子どもの様子を観察しています。子どもによって、クラスに入って保育園生活を体験する場合には、クラス担任が子どもの様子を観察します。
- ・ 新入園児受け入れにあたっては、短縮保育（ならし保育）や子どもが心理的抛り所とするハンカチの持込みなどの配慮の上、「連絡帳（全園児利用）」を通して、子どもの生活の連動性が保たれるよう保護者と連携を図っています。
- ・ 0・1・2歳の新入園児は、園になれるまで個別に担当保育士を決めています。また、新入園児の長時間保育はクラス担当者を配置し、年度当初は職員人数を多めに配置するなど、新入園児・在園児ともに不安なく過ごせるように配慮しています。
- ・ 指導計画は、子どもの発達に応じて、年齢や個人差を考慮して作成しています。
- ・ 指導計画は各クラスミーティングを通して作成され、カリキュラム会議を通して職員全体に周知すると共に、意見交換が行われています。
- ・ 指導計画には、保護者の意向も随時反映しています。例えば保護者に好評だったお楽しみ会の「体操教室」を、現在、3歳児クラス以上のカリキュラムに組み込んでいます。

- 3 快適な施設環境の確保



- ・ 3年前に新設された園舎は屋内・外とも清潔に維持されています。日々の清掃は職員のシフトで分担し、チェックリストで実施状況を管理すると共に、大掃除もチェックリストに従い定期的に行われています。
- ・ 各保育室には大きな窓が設置され、陽光が取り入れられています。
- ・ 温湿度調節は、エアコン・床暖房や加湿器で行っています。必要以上に外気温との温度差が開き過ぎないように注意した上で使用しています。
- ・ 0・1歳児クラスには沐浴設備と温水シャワーが設置され、清潔に保たれています。また、園庭にも温水シャワー設備があり、戸外遊びから戻ったときに使えるようになっています。
- ・ 各保育室は、棚や畳等の敷物の配置を工夫し、小集団で落ち着いて遊べるようになっていると共に、食べる・寝るなどの機能別空間を確保しています。
- ・ 異年齢交流は、朝夕の「時間延長保育」「長時間保育」時に異年齢合同の保育を行うことや、5歳児が午睡後に低年齢児クラスの着替えを手伝うことで、機会を作っています。

- 4 一人ひとりの子どもに個別に対応する努力



- ・ 0・1・2歳児については、子ども一人ひとりの状況に応じて毎月、個別の目標を立て、月間指導計画を作成しています。
- ・ 幼児についても特別な課題がある場合には、月間指導計画の中の個別配慮欄に、個別の状況や目標を記載しています。
- ・ 一人ひとりの個人ファイルが用意され、入園時の調査票や保健記録、経過記録など、子どもの発達に関する記録が個々にまとめられています。記録は日頃の保育や年度末の申し送りで活用されています。

- 5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み




- ・ 特に配慮を要する子どもや障がい児の個別ケースについては、カリキュラム会議で話し合い、職員全体で見守る体制を作っています。
- ・ 障がい児を受け入れています。地域療育センターの専門家と連携し、「障害児指導計画」を作成し、リハビリの助言を受けています。
- ・ 更に、専門家の助言を職員間で共有するため、対応方法は写真を用いて分かりやすくまとめ、独自の資料を作成することで職員の学びを深めています。
- ・ 担当保育士を中心に、要配慮児や障がい児についての研修を受けています。受講者は必要に応じてクラスの職員に報告して保育に活かしていますが、職員全体で研修内容を共有し学習するまでには至っていません。今後、要配慮児や障がい児に関する研修内容を全体で学習する機会を、定期的に作る事が望まれます。
- ・ 園の敷地にはスロープがあり、歩行が困難であっても表玄関の階段を使わずに保育室に入ることができるようにバリアフリーに配慮した環境設備になっています。
- ・ 食物アレルギーの対応は、かかりつけ医の診断書のもと適切に対応しています。
- ・ 代替食の提供は、見た目の差が出ないように工夫しています。また、誤食を避けるため、除去食品の種類によって食器の色を変え、プレートにセットし、更に配膳室の献立表に印を付けることで全職員が漏れなく確認できるように取り組んでいます。
- ・ 外国籍の子どもに対して、文化や生活習慣、考え方の違いを認め、宗教食にも対応しています。

- 6 苦情解決体制



- ・ 園の玄関には、苦情受付に関する掲示物があります。
- ・ 掲示物には、苦情受付担当者は主任、苦情解決責任者は園長と明記され、直接第三者委員に苦情を申し立てることができるように、第三者委員の氏名と電話番号も記載されています。
- ・ 保護者の要望や意見等は、日々の送迎時や行事後のアンケートや懇談会を通じて、進んで受けるようにしています。
- ・ 権利擁護機関など他機関の苦情解決窓口を必要に応じて紹介しています。
- ・ 苦情や要望は記録し、ファイルに綴じています。対処方法は必要に応じて職員会議や、各クラスの代表と園長が集まる昼ミーティング（週一回）で取り上げています。

評価領域 サービスの実施内容

評価分類	評価の理由（コメント）
<p data-bbox="161 344 472 383">- 1 保育内容[遊び]</p> 	<ul data-bbox="600 271 1476 1771" style="list-style-type: none">・牛乳パックで作った椅子やブロック、棚などを工夫してコーナーを作っています。それぞれのコーナーは遊びに応じた畳やカーペットなどを使い、子ども一人ひとりが興味・関心にそって落ち着いて遊べる環境となっています。・保育士は、子どもが「やりたい」という気持ちを大切に、子どもたちの自発的なごっこ遊びを発展させて集団活動に取り入れています。例えば、絵本に出てきたロボットを作りたいという子どもの声から、段ボールを使った大きなロボットづくりに発展させました。みんなで一つの作品を仕上げ、お楽しみ会で保護者に紹介しています。・一斉活動では、みんなで一緒に遊ぶ楽しさを感じることができるとともに、友だち関係やルールを守る等の社会性を重視して、役割ややりとりに決まりがあるお店屋さんごっこなどを年齢に応じて取り入れています。・インゲンのツル無しとツル有りを栽培し、その違いを比べたり、収穫したものを洗って、給食室で茹でてもらい食べたり、芋掘りで収穫した芋を調理活動に発展させています。・散歩で近隣のバスの折り返し場に見学に行ったり、地域ケアプラザに行ったりすることが、野外活動で地域を知る機会となっています。また、散歩先で見つけた、動植物など興味を持ったものをすぐに調べられるように、図鑑や絵本などを準備して自然を知る機会につなげています。・子どもが自発的に表現するように、はさみや色鉛筆などを自由に使えるように用意しています。また、5歳児では紙を大切に使えるようになると各自が自由画帳を持ち、作品が残るようにしています。・子ども同士のけんか等について、保育士は危険がないよう見守りながら、子ども同士で解決ができるように援助しています。また、必要に応じて事前に保育士が目を配り、子ども同士の良い関係づくりに配慮をしています。・午後の時間に5歳児が乳児クラスの着替えを手伝いに行くなど、異年齢の子ども同士が関わりを持てるように、配慮しています。・保護者の要望から取り入れた体操教室では、年間計画を毎月見直し、外部指導員と保育士が協力して、子どもの既往歴や健康状態に合わせた遊びを工夫しています。

- 1 保育内容[生活]






- ・ 保育士は、子どもの食べる意欲を大切に、一人ひとりの状況に応じて、声かけをしながら介助をしています。離乳食は一人ひとりの状況を見て、保護者と連携して、進み具合に併せ、家で試すことと平行して進めています。
- ・ たまねぎの皮むきなどの調理参加やクッキングの経験を取り入れたり、調理室前のホワイトボードにその日のメニューをイラスト付きで表示したり、子どもたちが食事及びその過程（調理・配膳・片づけ）に、関心を持つよう工夫しています。
- ・ 当番や保育士はエプロンや三角巾をつけ配膳をして、食事の場としての雰囲気づくりに配慮しています。子どものエプロンや三角巾は各自が家で好きなものを用意しています。
- ・ 献立会議の中で保育士と調理担当者が熱心に喫食や気づいた点の意見交換を行い、子どもの好き嫌いを把握し献立づくりに活かしています。
- ・ 保護者向けに給食試食会を開催しています。栄養士や担任も一緒に食事を摂り、食事作りのポイントや人気メニューなどを紹介したり、保護者からの相談や意見交換を行ったりしています。
- ・ 眠れない子どもには午睡を強制せず、静かに過ごすようにさせるなど柔軟に対応しています。また、年長児は、年末くらいから寝ない子、寝る子、それぞれ自由に過ごせるようにして、1月から少しずつ減らしていくようにしています。
- ・ トイレトレーニングは、「急がない、あせらない」を前提に、一人ひとりの発達状況に応じて午睡から目覚めた時にトイレに座らせてみるなど、個別に対応しています。1歳後半くらいからは、自分から教えたり、他の子のマネをしてトイレに座ったりする様子を見ながらパンツに切り替えています。

- 2 健康管理・衛生管理・安全管理 [健康管理]



- ・ 子どもの健康管理に関するマニュアルがあり、「視診のポイント」を参考に登園時に子どもを受け入れています。出来るだけ、登園時には、主任や看護師が各クラスを回り、保護者に声をかけながら一人ひとりの健康状態を把握するようにしています。
- ・ 一人ひとりの健康診断・歯科健診の記録があり、健康診断の結果は、「おおきくなったね」を通して身体測定結果を保護者に伝えていきます。歯科検診についても報告書を保護者に渡すなど、情報を共有し家庭との連携を密にしています。
- ・ 感染症が発生した場合や地域での流行などの情報が入った場合には、掲示やお便りに載せるなど速やかに保護者に情報提供しています。また、感染症に関する最新情報等はミーティングなどで速やかに職員に伝えて情報を共有しています。



<p>- 2 健康管理・衛生管理・安全管理 [衛生管理]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在作成に取り組んでいますが、衛生管理に関するマニュアルはありません。 ・ 感染症の対応の仕方や手順等については、全職員が確認し、印刷物を作成し回覧しています。 ・ 手洗い・消毒や汚物処理時の注意事項、乳児の玩具や保育室の消毒、害虫駆除などについて、手順や時期が決められており、清潔・適切な状態が保たれています。
<p>- 2 健康管理・衛生管理・安全管理 [安全管理]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安全管理に関して、事故防止マニュアルと事故対応マニュアルを開園当初に作成し、全職員に配布しています。また、災害時の緊急連絡体制が確立し、緊急時の送迎と体制について、職員と保護者に対して書面で周知しています。ただし、安全対策については、事故対応だけでなく、災害時の対応も含めて、マニュアルの見直し・整備を行い、全職員に周知することが望まれます。 ・ 子どものケガについては、軽傷であっても必ず連絡ノートや口頭で保護者に状況を報告し、保健日誌や職員間の連絡ノートへ記入し、全体周知しています。また、状況によっては会議やミーティングで取り上げ、経過と対応の確認を行っています。 ・ 地震等を想定し、大きな家具などの転倒防止については安全対策を行っていますが、対策に漏れが無いが、再度検討することが望まれます。
<p>- 3 人権の尊重</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育中子どもをせかしたり強制したりせず、一人ひとりの様子を見て、そばに行き穏やかに分かりやすい言葉で話をしています。注意すべき事柄は各クラスで確認し合い、一貫した対応をとるようにしています。 ・ 友だちや保育士の視線を意識せず過ごせるように、棚やついたてでコーナーを作り、空間を確保しています。 ・ 個人情報の取り扱いについては、保護者会で説明し、希望を聞いた上で、連絡網は作成しないことに決めました。保育中の写真の取扱などについても、保護者の了解を得ています。 ・ 虐待の定義については、ミーティングの時に取り上げ、虐待が明白になった場合や疑われる場合には、地域療育センターや福祉保健センター、児童相談所などの関係機関に迅速に通告・相談する体制を整えています。 ・ 無意識に性差による固定観念で保育をしていないか、ミーティングの時に気になることは話し合うなど、職員同士で反省する仕組みをつくっています。

- 4 保護者との交流・連携






- ・ 保育の基本理念を全体会または懇談会などで保護者に説明する機会を設けています。また、これまで意識して使っていなかった理念や方針という専門用語を、分かりやすい文章にまとめ、園だよりに載せて保護者の理解促進に努力しています。
- ・ 朝の受け入れや長時間保育時の申し送りは、クラス別に連絡ボードに保護者、園それぞれからの伝達事項を記入して伝えています。そうすることで、職員が交代しても子どもの送迎時に、適切に子どもの様子が伝わるようにしています。
- ・ 全年齢の子どもが連絡帳を持ち、日々の子どもの様子について保護者とときめ細かに情報交換をしています。
- ・ 個人面談は随時受け入れていますが、申し出にくい保護者に配慮し、個人面談期間を設けて積極的に参加を呼びかけています。
- ・ 職員室からも保育室側の廊下からも出入りできる相談室があり、相談内容などを人に聞かれないで相談できるようになっています。相談の内容は個人ファイルに記録され継続的にフォローをしています。
- ・ 園だより「おはなのかぜ」を定期的に発行するほか、各クラスの前に黒板を設置し、その日の様子やクラス単位のお知らせをしています。
- ・ 保育参観または保育参加は、随時受け付けていますが、さらに参加しやすいように年2回、1週間ずつ期間を設けて積極的に受け入れています。また、「敬老会」では、祖父母が保育に参加できる機会を設けています。
- ・ 保護者会との窓口は主任が担当し、保護者組織とは常にコミュニケーションをとりながら、次年度の計画に保護者の意向を反映させています。




評価領域 地域支援機能

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域住民向けの育児講座後にアンケートをとり、講座の感想だけでなく、園への要望も聞き、今後に役立てるようにしています。 ・ 主任が地域の子育て連絡会に参加し、地域の子育てに対するニーズを把握できるように努力しています。 ・ 地域での子育てを支援するためのサービスとして、園庭開放の他、子育て支援事業の一貫として、夕涼み会や運動会、餅つき会等の行事に地域の子育て中の親子を招待し、多くの参加者があります。 ・ 地域の子育て支援ニーズについて、園としても課題ととらえ職員間で話し合われていますが、今後勉強会などの定期開催が望まれます。
<p>- 2 保育園の専門性を活かした相談機能</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 見学や育児相談は常時受け付け、情報提供や育児相談を実施していますが、さらに定期的に相談日を設けて掲示での広報をするなど利用しやすい配慮が望まれます。 ・ 区役所や地域療育センターなどの関係機関とは、担当を決め日常的に相談ができるなど、連携ができています。




評価領域 開かれた運営

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会の方に子どもたちが盆踊りを教えてもらい、夕涼み会には、地域の方たちを招待して子どもたちと一緒に盆踊りを踊るなどの交流があります。 ・就学前に学校探検などを行ったり、中学校の職業体験学習や小学校の新任職員研修を受け入れたり、学校教育との連携を積極的に図っています。 ・区の子どもフェスティバルなどの地域のイベントへの参加や、地域の保育園との交流など、子どもたちが地域の活動に参加できるように配慮しています。
<p>- 2 サービス内容等に関する情報提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・園のパンフレット・広報誌、区のホームページ等により、地域や関係機関に随時、情報を提供しています。港南区子育て連絡会が発行する子育て情報誌「まっぷっぷ」に、施設の状況やサービス内容を掲載しています。 ・利用希望者からの電話相談で見学ができることを案内し、保育に支障をきたさない範囲で、曜日や時間は見学希望者の都合に対応しています。
<p>- 3 ボランティア・実習の受け入れ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア受け入れの実績は無くマニュアルを作成していません。ただし、あらかじめ職員や利用者へ受け入れの基本的考え方・方針が理解されるよう説明する体制はあり、マニュアルの作成に取り組んでいます。 ・実習生受け入れのためのマニュアル等があり、それに基づき実習生に対して園の方針、利用者への配慮等を十分説明しています。 ・実習目的に応じた効果的な実習が行われるために、プログラムは1日の生活の様子を見られるように配慮し、実習生の希望にも合わせています。また、実習生と職員との意見交換や実習生の記録は自分たちの活動の振り返りの機会になっています。

評価領域 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 職員の人材育成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 開園3年目の園で、法人代表や園長の交代を初めとする職員の入れ替わりが多い時期もありましたが、経験や知識の豊富な職員が多く、職員間の連携が取れた丁寧な保育が実施されています。 ・ 園の理念や方針に沿った人材を育成するため、園内研修はテーマを決め、非常勤職員も交えて行っています。外部研修については、園長の声掛けや職員の希望を募り、年間20件以上の研修に参加しています。 ・ 外部研修の成果は、研修の記録と資料をファイルにして自由に閲覧できるようになっています。また、受講者は自発的にクラスで報告することもあります。 ・ 昨年度は研修報告会を園内研修で行っていましたが、本年度は、第三者評価受審をテーマに園内研修を行ったため、その他の研修報告会は実施されていません。園として、研修の成果を定期的に共有し、職場に活かす仕組み作りや、研修の成果を評価して研修内容を見直す取り組みが望まれます。 ・ 非常勤職員の資質向上・情報共有は、クラスミーティング、園内研修や、非常勤職員用の連絡ノートを通して行っています。 ・ 非常勤職員に業務マニュアルが配付されていません。現在、「業務の手順表」の見直しを行っており、その完成を機に、非常勤職員を含む全職員の業務が標準化されることが期待されます。 ・ 職員・非常勤職員共に、年一回、園長と個人面談を行っています。個人面談では、一年の反省と翌年度の配置希望を確認していますが、職員個々の目標を毎年度定め、その達成度を評価する取り組みは行っていません。 ・ 人材育成計画や研修計画を作成していません。計画的に人材を育成するために、スキルの段階にあわせた人材育成計画や研修計画を策定するなどの取り組みが望まれます。
<p>- 2 職員の技術の向上</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ カリキュラム会議において、保育の見直しを行い、日々の保育で評価し、日誌に記録しています。 ・ 地域療育センターなどの外部機関の指導やアドバイスは、クラスミーティングで話し合わせ、指導計画に反映させると共に、職員個々のスキルの問題として自己点検を行っています。 ・ 研修で得た事例は、クラスミーティングで随時話し合われています。
<p>- 3 職員のモチベーション維持</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員のモチベーション向上のため、「どんな保育園にしたいか」というテーマの園内研修を行っています。職員が平等にかつ自由に意見を出し合えるように、KJ法を用いてグループ討議を実施しています。 ・ 現場で自主的に判断できるように、日々の保育や指導計画について、職員に権限委譲しています。 ・ 経験・能力や習熟度に応じた役割が、期待水準として明確化されていません。職員個々の責任や役割を明確にし、やりがいや満足度を高める為の取り組みが望まれます。 <p>テーマを決め、自由なアイデアや意見を小さなカードに書き込み、それをグループ化していき、テーマの解決に役立つヒントやひらめきを生み出していく手法。</p>

評価領域 経営管理

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 経営における社会的責任</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 守るべき法・規範等は「就業規則」に記され、就業時のオリエンテーションで説明・配付すると共に、職員が遵守しています。 ・ 経営・運営状況の情報は、一部（設備や一時保育の収支）を職員に報告しています。 ・ 環境への配慮として、牛乳パック・ペットボトルやトイレットペーパーの芯などの廃材を集め、遊具や製作へ転用しています。また、電気はこまめに切るなど、省エネに対する意識を職員間で共有しています。 ・ なお、環境への考え方・取り組みは明文化していません。
<p>- 2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育の理念や方針は、就業時のオリエンテーションや毎月のカリキュラム会議などで、職員に周知されています。 ・ 園内研修を通して、保育の理念や保育方針に対する職員の理解度を把握し、非常勤職員を含む職員全体の理解度を高めています。 ・ 重要な意思決定や変更事項は、園長・主任間で充分協議した上で、会議で職員に説明し、検討チームを編成し取り組んでいます。 ・ 「保育参加と試食会」等の新規の行事は、栄養士と保育士が意見交換し合い、実施しています。 ・ 保護者の要望を踏まえ、「異年齢児保育を年齢毎の保育に変更する」や「体操教室を正課にする」などの重要な意思決定を行っています。園だより「おはなのかぜ」を通じてわかりやすく目的や理由を伝えていますが、保護者と意見交換をする場は設けていません。 ・ 主任は、保育現場に入り、職員の業務状況や心身状況を把握することで日常的に職員に助言をし、相談にも応じています。 ・ 主任は各種研修に積極的に参加し、スーパーバイザーとしての技量を向上させています。
<p>- 3 効率的な運営</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全国保育協議会や日本保育協会に加入し、事業運営に影響のある全国レベルの情報を収集するように努めています。 ・ 理念や基本方針の実現のために重要な情報は園長と職員間で日常的に議論し、重要な課題については、園全体で取り組んでいます。 ・ 中・長期計画はソフト面（保育や人材）とハード面（設備）において、それぞれ一年目、二年目、三年目、中期、長期に分け、一覧表にしています。 ・ 運営に関して、会計士や社会保険労務士など、外部専門家の意見を取り入れています。

利用者（園児）家族アンケート 分析

- 1、実施期間 2008年10月25日～11月3日
- 2、実施方法 保育園から全園児の保護者に直接配付（手渡し）し、回答を依頼。
各保護者より、同封の返送用封筒で、評価機関あてに無記名で返送。
- 3、回収率 約57.3%（75枚配付、43枚回収）
- 4、所属クラス 0歳児クラス...5人、1歳児クラス...5人、2歳児クラス...7人、3歳児クラス...9人、
4歳児クラス...10人、5歳児クラス...6人、クラス不明...1人

ただし同一家族で複数名が園に在籍している場合は、下の子どものクラスについて回答。

*文中の「満足」「満足度」は、「満足」どちらかといえば満足」の回答を合計した数値、
「不満」は「不満」「どちらかといえば不満」の回答を合計した数値です。

設問ごとの特徴

【問1】保育園の基本理念や基本方針について

理念や基本方針を知っている保護者は80%以上です。そのうち95%以上が「賛同できる」「ほぼ賛同できる」としています。意見欄には、“新しい取り組みが増え、発育の中で心身ともに大切なところを伸ばしていけるプログラムが多く組み込まれている”という意見があります。また、学習や学力についての要望も寄せられています。

【問2】入園時の状況について

「面接などで子どもの様子や生育歴を聞く対応」や「園での一日の過ごし方についての説明」は80%前後の保護者が満足しています。一方、「費用や決まりに関する説明（入園後に食い違いがなかったかなども含めて）」は40%程度、「入園前の見学や説明など、園からの情報提供」「園の目標や方針についての説明」は30%前後の保護者が不満を感じています。意見欄には、“新設園のために見学していない”“持ち物が変更になった”という意見が多くみられ、新設園ゆえの事情が散見されました。

【問3】年間の計画について

「年間の保育や行事についての説明」は90%弱の保護者が満足し、「年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているか」は70%弱の保護者が満足しています。“昨年から年間スケジュールを4月に頂ける”“昨年より行事が増え、園の様子がわかりやすくなった”という意見がある一方、“計画はあるが具体的なお知らせが遅い”“遠足がないのは少し寂しい”といった意見も出ています。

【問4】日常の保育内容「遊び」「生活」について

「遊び」の設問は、6問全てにおいて、9割以上の満足度となっています。その中でも特に満足度が高かった設問は、「クラスの活動や遊び（子どもが満足しているかなど）」「遊びを通じた子どもの健康づくり」で、共に95%以上の満足度となっています。“発達に合わせた遊びをしてくれるので、子どもは保育園や先生が大好きです”という意見や“上手に遊ばせて下さっている”という記述があり、更に“どういふ本や教材を使用しているか教えてほしい”や“もっと歌いながら体を使って楽しくやってほしい”という要望も出ています。

「生活」の設問も全体的に満足度が高く、「給食の献立内容」「給食を楽しんでいるか」「生活習慣（着脱・手洗いなど）の自立」において95%以上の保護者が満足しています。その他の「昼寝や休憩の個別対応」「おむつはずしを柔軟に進めているか」「体調への気配り」「ケガの説明や対応」においても85%以上の満足度となっています。食材やメニュー、おむつはずしや自立の支援に対して好意的な意見が多くみられています。また、“5歳児に関しては小学校に行く生活準備をしてほしい”といった意見やケガに対する要

望も出ています。

【問5】快適さや安全対策などについて

「落ち着いて過ごせる雰囲気」の設問は95%以上の保護者が満足し、「施設設備」についても90%程度が満足しています。「不審者侵入を防ぐ対策」「感染症の発生状況や注意事項の情報提供」は80%前後の満足度となっており、全体的には高い満足度になっています。記述では、“感染症は出始めた時にお知らせしてほしい”という要望や不審者対策についての意見が出ています。

【問6】園と保護者との連携・交流について

満足度の分布は、80%台を中心に、75%から90%程度となっています。「園の行事の開催日や時間帯への配慮」の満足度は90%程度で、「お迎えが遅くなる場合の対応(開所時間内)」は75%位となっています。「送迎の際の子どもの様子の説明」については意見が多く出ており、好意的な意見と、そうではない意見で分かれています。

【問7】職員の対応について

満足度は設問ごとに多少バラツキがあります。「子どもが大切にされているか」と「子どもが園生活を楽しくしているか」は共に90%以上の満足度になっています。一方、「意見や要望への対応」が70%弱となっています。意見もバラツキがみられ、好意的な意見と、そうではない意見とに分れています。

【問8】保育園を総合的に評価すると

総合満足度は90%です。

【問9】園への要望など

園への要望としては、“年長児は学習面に力を入れてほしい”“保護者会の要望を取り入れてもらいたい”というような意見があがっていますが、全体的には満足している記述が多く見られています。

まとめ

◇ 満足度が高かった点

設問ごとの傾向としては、日常の保育内容「遊びについて」「生活について」の満足度がおおむね90%以上となり、高い満足度を示しました。設問別では、「保育目標や保育方針に賛同できるか」「給食の献立内容」「生活習慣(着脱・手洗い)の自立」「落ち着いて過ごせる雰囲気」が97%以上の満足回答が寄せられました。

◇ 満足度が低かった点

一方、「入園時の状況について」は、全般的な満足度の数値が抑えられる傾向となっています。中でも「費用や決まりに関する説明について(入園後の食い違いがなかったかなども含め)」は40%以上の保護者が不満を感じています。

◇ 意見欄・記述欄より

“年々色々と工夫して頂いている”“職員が安定してきている”“開園当初より徐々に良くなっている、”という意見が、各設問の記述欄で随所に書かれています。園の姿勢を、保護者が理解してきている様子がうかがえます。

利用者（園児）家族アンケート集計結果

実施期間： 2008年 10月25日～11月3日

回収率： 57.3%（回収43枚 / 配布75枚）

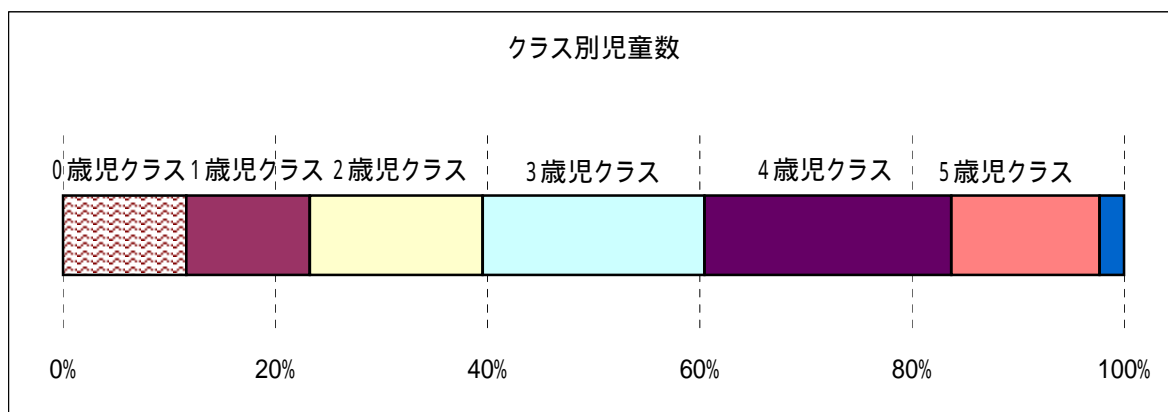
【属性】

クラス別児童数

（人）

合計	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス	無回答
43	5	5	7	9	10	6	1

同一家族で複数名が園に在籍の場合は、下の子どものクラスで記入



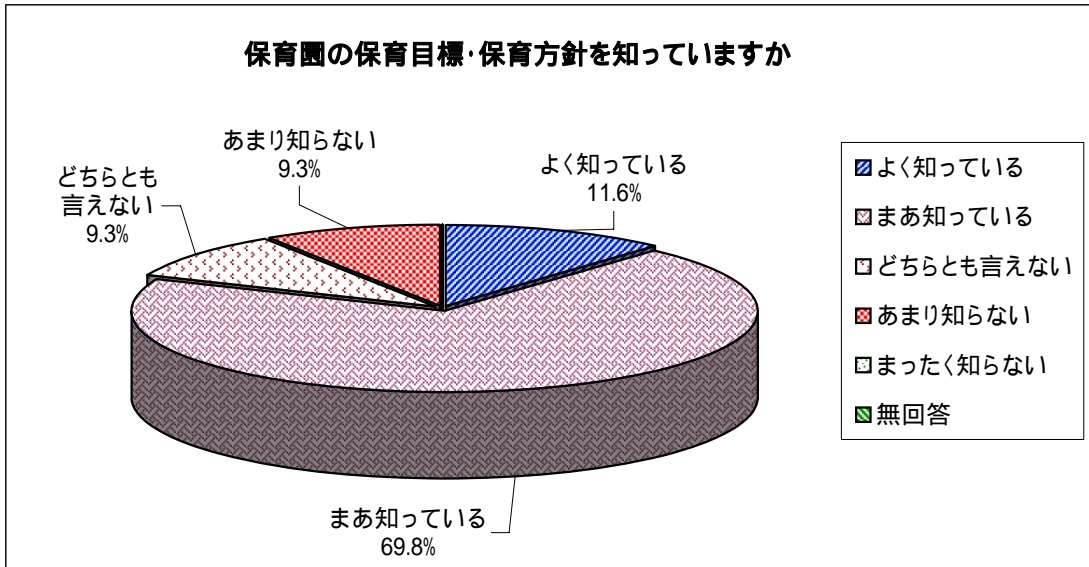
保育園の基本理念や基本方針について

問1: 保育園の保育目標や保育方針を知っていますか

(%)

問1:	よく知っている	まあ知っている	どちらとも言えない	あまり知らない	まったく知らない	無回答	計
あなたは、この園の保育目標・保育方針をご存じですか	11.6	69.8	9.3	9.3	0.0	0.0	100

(%は小数第1位まで表示し、合計の小数第1位を四捨五入すると100%になります。)

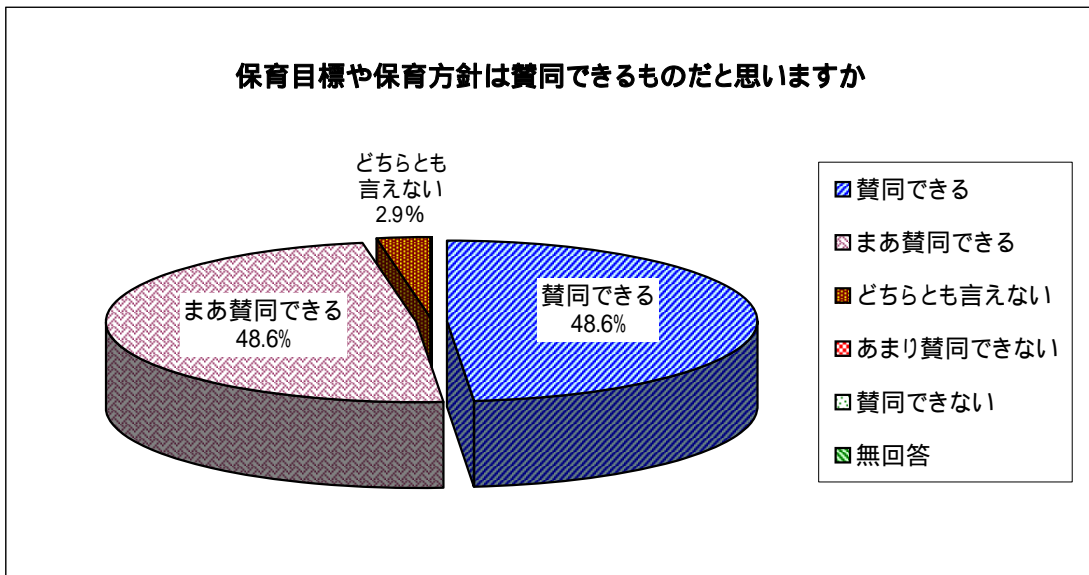


「よく知っている」「まあ知っている」と答えた方への付問

付問1: その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか

(%)

付問1:	賛同できる	まあ賛同できる	どちらとも言えない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答	計
あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか	48.6	48.6	2.9	0.0	0.0	0.0	100



保育園のサービス内容について

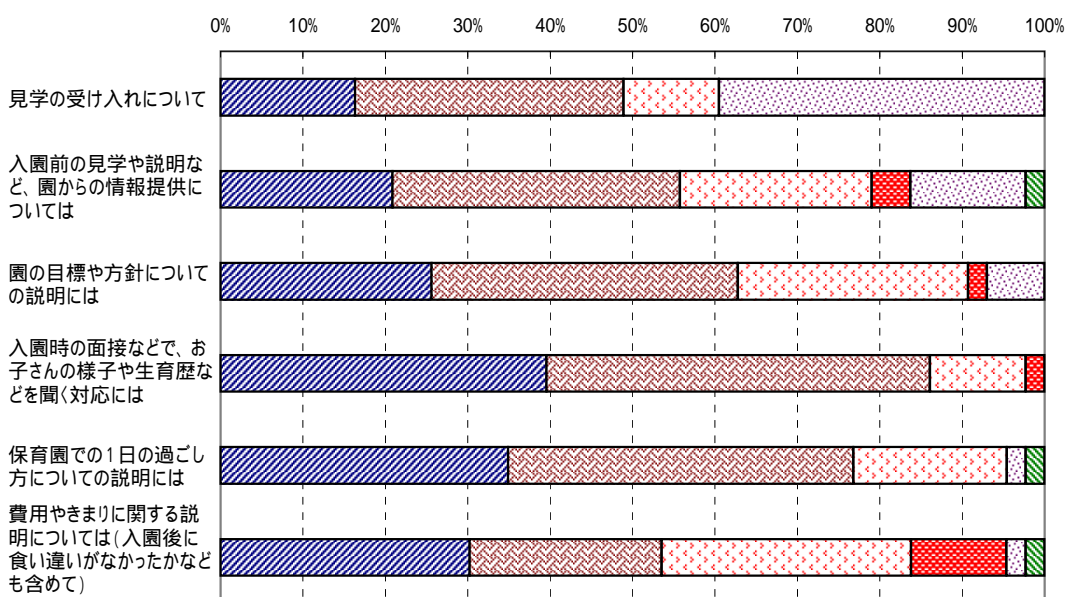
問2 入園時の状況について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
見学の受け入れについて	16.3	32.6	11.6	0.0	39.5	0.0	100
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	20.9	34.9	23.3	4.7	14.0	2.3	100
園の目標や方針についての説明には	25.6	37.2	27.9	2.3	7.0	0.0	100
入園時の面接などで、お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	39.5	46.5	11.6	2.3	0.0	0.0	100
保育園での1日の過ごし方についての説明には	34.9	41.9	18.6	0.0	2.3	2.3	100
費用やきまりに関する説明については(入園後に食い違いがなかったかなども含めて)	30.2	23.3	30.2	11.6	2.3	2.3	100

入園時の状況について

■満足 ■どちらかといえば満足 ■どちらかといえば不満 ■不満 ■その他 ■無回答



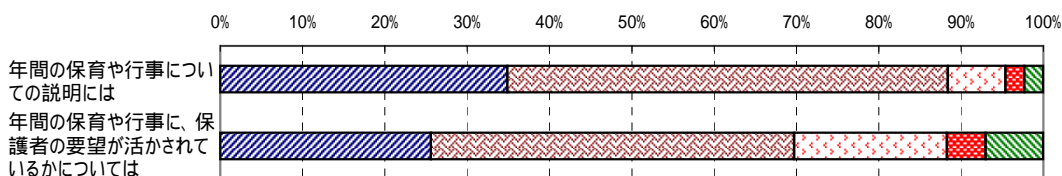
問3 年間の計画について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
年間の保育や行事についての説明には	34.9	53.5	7.0	2.3	0.0	2.3	100
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	25.6	44.2	18.6	4.7	0.0	7.0	100

年間の計画について

■満足 ■どちらかといえば満足 ■どちらかといえば不満 ■不満 ■その他 ■無回答

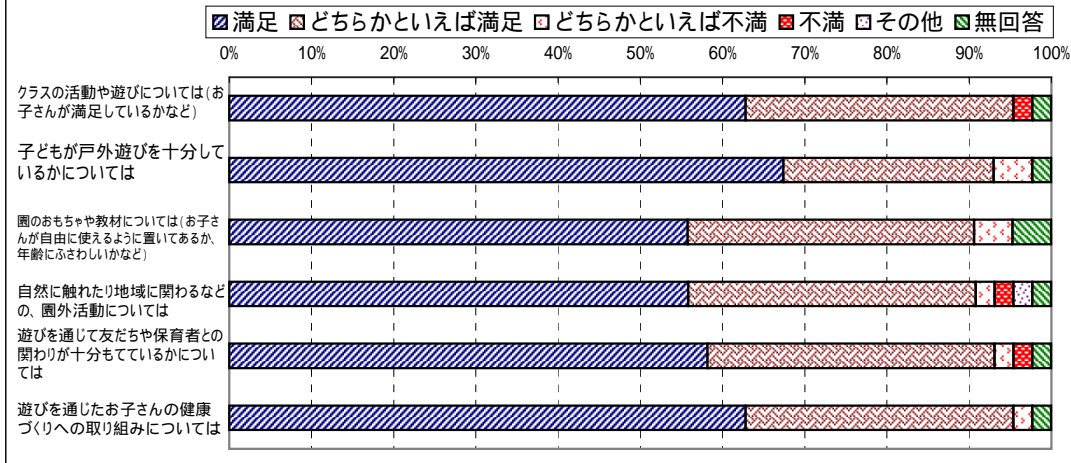


問4 日常の保育内容について

(%)

「遊び」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
クラスの活動や遊びについては(お子さんが満足しているかなど)	62.8	32.6	0.0	2.3	0.0	2.3	100
子どもが戶外遊びを十分しているかについては	67.4	25.6	4.7	0.0	0.0	2.3	100
園のおもちゃや教材については(お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	55.8	34.9	4.7	0.0	0.0	4.7	100
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	55.8	34.9	2.3	2.3	2.3	2.3	100
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もっているかについては	58.1	34.9	2.3	2.3	0.0	2.3	100
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	62.8	32.6	2.3	0.0	0.0	2.3	100

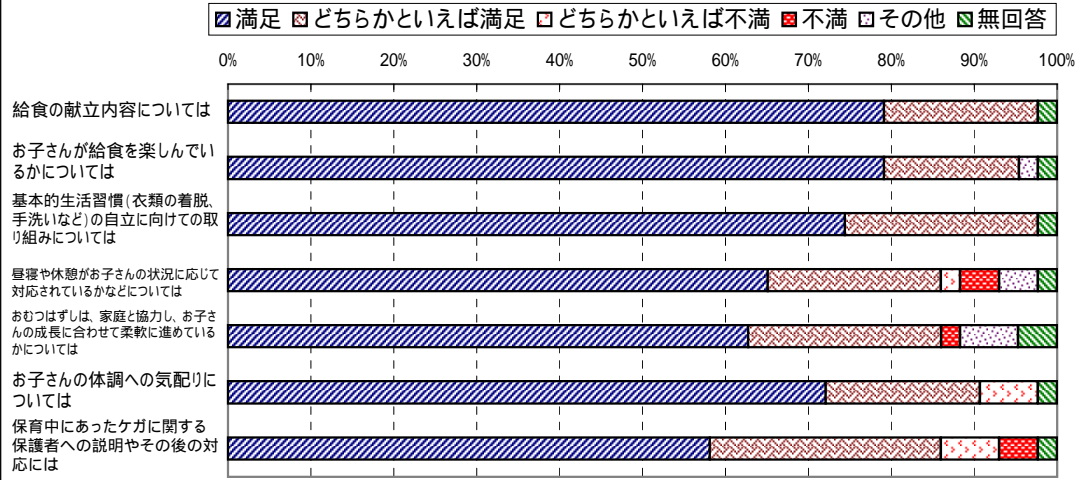
日常の保育内容「遊び」について



(%)

「生活」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
給食の献立内容については	79.1	18.6	0.0	0.0	0.0	2.3	100
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	79.1	16.3	0.0	0.0	2.3	2.3	100
基本的な生活習慣(衣類の着脱、手洗いなど)の自立に向けての取り組みについては	74.4	23.3	0.0	0.0	0.0	2.3	100
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	65.1	20.9	2.3	4.7	4.7	2.3	100
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	62.8	23.3	0.0	2.3	7.0	4.7	100
お子さんの体調への気配りについては	72.1	18.6	7.0	0.0	0.0	2.3	100
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	58.1	27.9	7.0	4.7	0.0	2.3	100

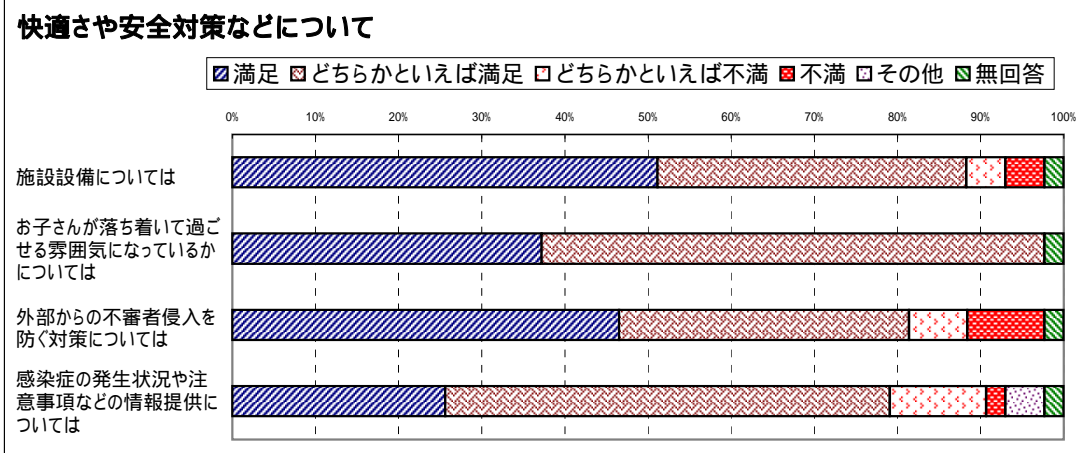
日常の保育内容「生活」について



問5 快適さや安全対策などについて

(%)

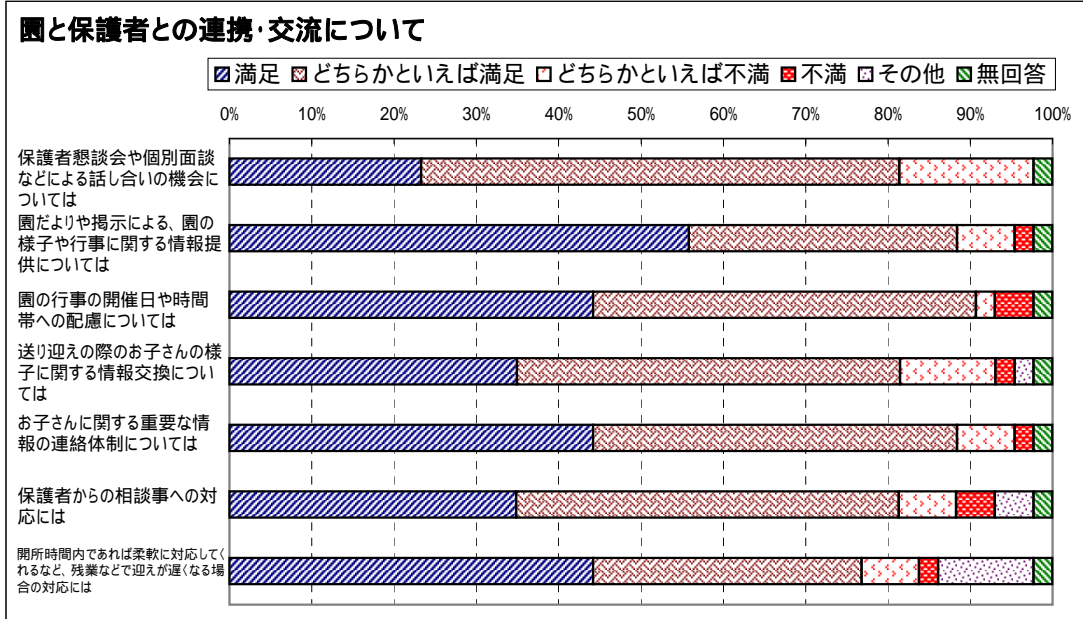
	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
施設設備については	51.2	37.2	4.7	4.7	0.0	2.3	100
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気になっているかについては	37.2	60.5	0.0	0.0	0.0	2.3	100
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	46.5	34.9	7.0	9.3	0.0	2.3	100
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	25.6	53.5	11.6	2.3	4.7	2.3	100



問6 園と保護者との連携・交流について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	23.3	58.1	16.3	0.0	0.0	2.3	100
園だよりや掲示による、園の様子や行事に関する情報提供については	55.8	32.6	7.0	2.3	0.0	2.3	100
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	44.2	46.5	2.3	4.7	0.0	2.3	100
送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換については	34.9	46.5	11.6	2.3	2.3	2.3	100
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	44.2	44.2	7.0	2.3	0.0	2.3	100
保護者からの相談事への対応には	34.9	46.5	7.0	4.7	4.7	2.3	100
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	44.2	32.6	7.0	2.3	11.6	2.3	100



問7 職員の対応について

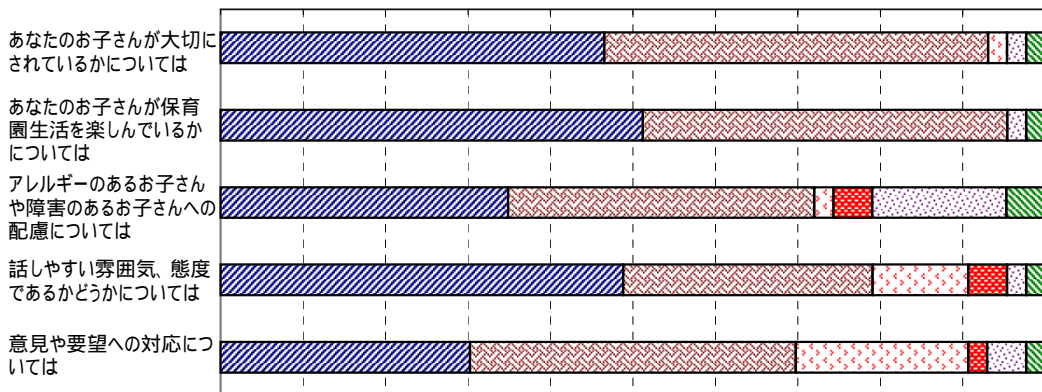
(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
あなたのお子さんが大切にされているかについては	46.5	46.5	2.3	0.0	2.3	2.3	100
あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるかについては	51.2	44.2	0.0	0.0	2.3	2.3	100
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	34.9	37.2	2.3	4.7	16.3	4.7	100
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	48.8	30.2	11.6	4.7	2.3	2.3	100
意見や要望への対応については	30.2	39.5	20.9	2.3	4.7	2.3	100

職員の対応について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

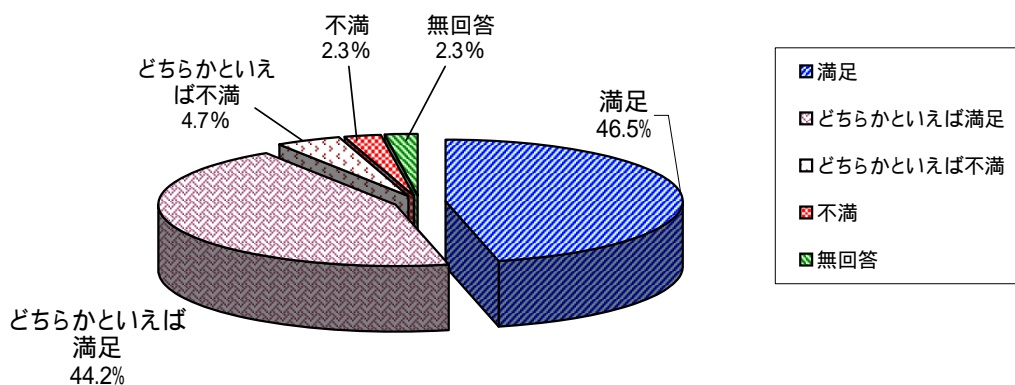


問8 保育園を総合的に評価すると

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答	計
総合満足度は	46.5	44.2	4.7	2.3	2.3	100

総合満足度



利用者（園児）本人調査 分析

観察調査 12月8日（月）9：00～17：30 12月10日（水）8：15～17：00

観察中、幼児を中心に、会話の中で適宜聞き取りを行いました。

0歳児クラス

0歳児クラスの保育室は、幼児クラスの保育室とは反対の園庭側にあり、乳児用園庭に向かって大きな窓があり開放的ですが、落ち着いた雰囲気があります。保育室内は畳やカーペットでコーナーが作っており、絵本を読んでもらったり、好きなおもちゃで思い思いに遊んだりしています。子どもたちは体を動かす遊びが大好きで、牛乳パック製の手作り階段に集まり、登ったり降りたりして楽しみながら足腰を使っています。テレビで人気の音楽がかかると楽しそうに声を上げながら踊っています。保育士も一緒にハイハイしたり踊ったりしながら、「かわいいね」と声をかけています。園庭でも子どもたちは1、2歳児に混ざって元気に自由に遊んでいます。2歳児に手を引かれ園庭を探検する姿が時折みられます。

保育士は、排泄や着替えなどは、一人ひとりの子どもの様子を見て、ゆとりをもって話しかけながら支援しています。食事の時には、何度も「ゆっくりね」と声かけしながら、自分で食べやすいようにスプーンにとれる量を器に入れて、手づかみの子どもには、ご飯をラップで丸めて食べやすいように支援しています。

1歳児クラス

朝の時間は、ブロック遊びやぬいぐるみなどで好きなことをして自由に遊んでいます。手作りのおんぶひもでぬいぐるみをおんぶするごっこ遊びが子どもたちの人気を集めています。得意な表情で、ぬいぐるみをおんぶする姿がクラスのあちらこちらでよく見られます。怪我をしていないのに絆創膏をねだる様子や、一つの遊びに固執する様子も見られましたが、保育士は子どもの思いを大切にしながら接しています。朝の会や手遊び歌が始まると、どの子どもも大きな声で歌い、身体いっぱい表現しながら楽しく参加します。保育士が絵本を読み始めると集中して楽しんで聞いています。絵本は子どもたちが頻繁に使う様子で、何度も修理された跡があります。

排泄は、自分からトイレに行き、ズボンの着脱も時間はかかりますが自分でやっています。保育士は失敗したときには素早く支援しますが、出来るだけ自分であることを見守っています。自分でできた子どもは「ちっちでた～」と保育士や他の子どもたちに嬉しそうに報告しています。

2歳児クラス

男性保育士がミッキーマウス体操を始めると他の遊びをしていた子どもたちも集まってきて、賑やかにキャーキャーと楽しんでいます。鬼のパンツ、ゾウさん列車と続き、全員が参加してきてみんながつながって身体を動かして遊びます。最後は手をつないで輪になりグルグル回るメリーゴーランドが終わるとみんなでごろんと床に転がります。保育士がわざと違うクラスの名前を呼んだ後に「つくし組さん」と呼ぶとみんな喜んで飛び起きます。

保育士は、クリスマスの制作をするために、始めに筆などの道具を見せて説明してから、これから始めることを話して聞かせます。初めて使う絵の具と筆でしたが、子どもたちは真剣に白い絵の具で雪をかき、その上に三角に切った緑の折り紙と四角の茶色の折り紙を使ってクリスマスツリーを貼り付けていきます。完成した子どもから名前をつけて貰って外遊びの支度をします。

園庭では、遊具や砂場で好きな事をして遊んでいます。自然な様子で0歳児や1歳児の面倒を見てい

ます。

3 歳児クラス

朝登園すると子どもたちは自分でコップやタオルなどを所定の場所に置いて、おもちゃやお絵かきなど自分の好きなことをして過ごしています。朝の会では歌を歌った後出席を取り、耳鼻科へ行く子どもがいることから、中耳炎の話になり鼻のかみ方の説明をしました。

保育士は、子どもたちの希望を聞きながら、その日の予定を説明します。この日はラーメン屋さんごっこです。「いらっしやい！いらっしやい！！」ラーメン屋さんの子どもたちはエプロンもつけて、とてもイキイキしています。野菜はおもちゃの野菜、ラーメン、メンマ、海苔は色紙を細長く切ったもの、ナルトは白いぎざぎざに切った紙にみんなでピンクのクレヨンで渦巻きを書いたもの、卵も白く丸く切った紙に黄色い丸い紙を貼ったものなど、どれもみんなの手作りのようです。お客さんは、お皿を持って麺や卵、なるとなどを入れてもらって、席に座って食べています。交代で全員がお店屋さんになりました。

途中、ラーメンの器をひっぱりあって、けんかになり女の子が泣き出しましたが、保育士がそれぞれに注意すると、泣いていた子どもが「じゃあ、君の持ってきてあげる、大盛りがいいよね？」と言って、ラーメン屋さんに行って仲直りをしていました。

4 歳児クラス

個性豊かな元気な子どもたちです。畳やカーペットでコーナー分けされていますが、それぞれ好みの場所があり、おままごとやお絵かき、ブロック遊びなど自分の好きなことをして遊びこんでいます。特に絵を書くことが好きな子どもが多く、自分のお絵かき帳を大切に使っています。

おもちゃの取り合いや言い争いがあると保育士がそれぞれの話を聞き、「優しく言おうね」などと注意を与えています。どうしても気分が落ち着かない子どもは、保育士がおんぶしたり、手を握ってゆっくりと話を聞かせたりするなど時間を掛けて対応しています。

給食の時間はお当番が三角巾とエプロンを着けて配膳を手伝い、今日のメニューを読み上げます。食べ終わると自分の食器は自分で片付け、歯磨きをしてパジャマに着替え、着替えた服はたたんでしまいます。歯磨きや着替えをせずに遊んでいる子どもには保育士が注意して促していますが、なかなか進みません。午睡の時間には、ござを敷いて布団を敷きカーテンを引いて眠る環境をつくりませんが、寝付けない子どもが多く、保育士は静かに話しかけながら眠りを促します。

5 歳児クラス

朝の自由時間には、ねんどやおままごと、先生（フリーの）がその場で描く絵をもらい、女兒がぬり絵をしています。保育士が、「さあ、お片付け始めようね」と言うと、ねんどの作品をこわさないようにケースに入れます。子どもは個々に片付け、個々に手洗いをしています。しまう場所は決まっています子どもたちは慣れた様子でさっさと片付けを終わらせます。

朝の会ではお当番が前に出て、「せんせいおはよう、みなさんおはよう」と手遊びのあと、点呼をします。

園庭では、男の子はかくれんぼ、女の子は砂やおままごと、鉄棒でさかあがりなどして遊びます。チューリップの球根にお水をあげている子もいます。子ども同士がぶつかり、保育士が「いやな気持ちになる人がいるから絶対走っちゃダメだよ」とその子や全体に声掛けすると、子どもが先生のまわりに集まり、また自然に散っていきます。遊び時間が終わると、「お片づけ終わっていないから手伝おう」と、ゴザでおままごとをしている子のゴザやおままごと用品をクラスみんなで大急ぎで片付けます。

給食は、先生が中心に食べ物の配膳を担当し、当番の2人は三角巾とエプロンをして、スプーン・フォ

ーク・コップなどを並べるお手伝いをします。

「お皿の置き場所はどうだったかな？」と保育士はホワイトボードを指差して確認します。自分の食べられる量に合わせて、子どもが手を上げて、事前に減らしてもらいます。途中栄養士が回ってきましたが、子どもたち同士でおしゃべりしながら食べています。

体操教室

3歳から5歳までの子どもたちは、週1回体操教室の時間があります。クラス毎にホールを使い、外部の指導員と保育士が協力してカー杯身体を動かして過ごします。身体を温めることから始まり、少しずつ手足を動かし、全身運動に移っていきます。指導員の楽しく軽快なおしゃべりに促されて、ハンバーガーを思い出しながら、足を伸ばして座って、脚をさすりながらバターを塗り、上体を倒してチーズを載せて、つま先をつかんで大きなパンをかぶせるとハンバーガーのできあがりです。身体を横に倒してお隣さんのハンバーガーをムシャムシャ、反対側に倒してムシャムシャと楽しみながら全身を使っています。平行棒を使って横歩きをしたり、二人で繋がって進んだり、待っている子どもたちは応援と写真撮影の役が振られ、自然と相手の動きを観察することになります。

跳び箱は、最初は跳び箱を縦長に置き、脚を揃えて“グー”踏み切って跳び箱の上に乗ることから始まり、次は開脚の“パー”で跳び箱の上に座り、手で押して降ります。最後は跳び箱を横向きに変えて、“パー”で踏み切り跳び箱の開脚跳びができるという様に順を追って練習が組まれています。

その他に、鬼ごっこやドッチボールでルールや友だちと協力することなどを楽しく遊びながら学んで行くプログラムになっています。

保育室では自我を通し、周りとの協調することが難しい子どもも、指導員のリズムカルな笛の合図と軽快な語り口に自然と集団行動に参加している様子が見られました。

事業者コメント

開園して3年目、とは言え一年目につまずきを生じた当園は実質二年目。「こんな時機に」と受審前の不安は大きかった。しかし、受審し終わった今、「この時機に受審してよかった」と実感している。マニュアル等の不備もあり、自己評価も職員は厳しく評価していたが、自己評価を園のものとしてまとめていく話し合いの過程で得たものは大いなるものがあった。

職員が園について思いを一つにして向きあってくれ、一生懸命取り組んでくれたことでまとまりが出来た。(話し合いの過程の職員を評価して欲しいと思った。)

私自身いろいろな気付きがあった。例えば、正規職員もパート職員も外部の人から見たら同じ職員として見ているのだから、言動や仕事に対し、責任を持って臨んで欲しい、と言っていた私が一番、正規とパートを区別していたのではないかと(連絡、話し合い等)ということ。又、「知らせている」と「周知している」との違い。伝えてあるから知っているはず、というのは確実に伝わったかどうか確認しないと伝えたことにならない。最初に言ったはずなのに、又、あの時このように伝えたはずなのに、が伝わっていなかったり、伝わったが意図したようには伝わっていなかったり、ということが多かった。知らせることの難しさを知った。

第三者からみられる緊張感、又は評価チェック表の細かいチェック項目から教えられた細かいことが、これからの保育に良い刺激となり参考となった。

以上の理由で受審を終わった安堵感と共に、次へのステップアップに気合を入れて臨もうと思っています。調査員の方の優しい表現、目配りがうれしかったです。

長きにわたってのお心遣い本当にありがとうございました。

園長 瀧本 典子

第三者評価の受審は、考え方、受け取り方、活かし方で大きく変わってくると思います。評価の結果を受け止め、それを活かせばいいんだ、という思いと、市民セクターよこはまの方による事前説明が思っていた通りのお話だったので、安心して受けることが出来ました。実際に自己評価を行ったり、訪問実施調査の中で評価されてきたことは、私たちが日々行っている取り組み、業務、サービスを確認しあったこととなり、多くの課題や自信となって返ってきました。

実際に一番難しかったのが時間を作ることであり、今回の評価を受けるうえでも全職員が関わった話し合いを進めるのには難しさもありました。しかし、話し合いの日程を決めるだけでも、普段あまり接触のない非常勤職員同士が関わりを持ったり、互いを知り合う機会になった様子もうかがえました。

自己評価後のアンケートも全職員が記入しましたが、皆が評価を行ったことでの気付きや手応えを感じることが分かり、皆で話し合ったという時間はとても貴重であり、重要なことでした。

この体験を活かし、より素敵なオハナ(家族)になるよう取り組んでいきたいと思っています。

主任保育士 伊藤 英子

～ 評価結果は、下記のウェブサイトからも見るができます ～

市民セクターよこはまの第三者評価のページ

<http://www.shimin-sector.jp/hyouka/>

横浜市(健康福祉局)の福祉サービス第三者評価のページ

<http://cgi.city.yokohama.jp/kenkou/jigyousyajoho/hyoukaall.cgi>

かながわ福祉サービス第三者評価推進機構のページ

<http://www.k-daisansyahyouka.org/>

特定非営利活動法人



特定非営利活動法人

市民セクターよこはま 評価事業部

かながわ福祉サービス第三者評価認証機関 第4号

横浜市福祉サービス第三者評価指定機関 第4号

〒231-0013 横浜市中区住吉町二丁目26番地 洋服会館2階

TEL:045-222-6501

FAX:045-222-6502

<http://www.shimin-sector.jp>
